

「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール 大会要項

1. 趣旨・目的

- ・技術・家庭科で習得した知識や技能を生かした被服作品等の設計、製作を通して、ものをつくる喜びを味わう機会とする。
- ・自分や家族の生活をより豊かにするために、個性や工夫を生かした製作の目的を明確にすることにより、製作や活用の喜びを味わう機会とする。
- ・製作を通して、ものを大切にする心や成就感、自分や家族の生活を豊かにすることの大切さを実感する機会とする。

2. 審査日 令和6年10月28日（月）

3. 審査会場 静岡大学教育学部 F 棟 2 階 被服室

4. 競技内容 各校にて製作し、提出された作品を審査する。

5. 競技の課題および課題製作上の注意点について（全国中学生創造ものづくり教育フェアに準ずる。）

(1) 競技の課題について

『バッグ（ショルダーバッグ、トートバッグ、リュックサックなど）』とする。

(2) 使用する布について

- ・バッグ本体の全部または一部に、家庭にある自分または、家族の衣服を用いる。
その他、衣服以外の布等も使ってよい。⇒解体前の全体像を写真またはイラストでレポートに表す。
- ・使用する衣服又は布等は、家庭用ミシンの11番もしくは14番のミシン針で縫える程度の厚さのものとする。※使用する布の厚さに関しては、今年度の全国大会要項には記載はありません。

(3) デザイン及び機能について

- ・衣服の一部をそのままの形で1つ以上活用する。
(例えば：ポケットやボタン等をそのまま利用するなど)
- ・『バッグ』の口を閉じられるようにして、中身が出ない工夫をする。

(4) 縫製について

- ・3時間程度で製作できる作品とする。
- ・入れるものに必要な強度が保たれるように、布目の方向や縫い目の大きさ及び縫い代の始末の仕方などを工夫する。
- ・バッグのいずれかの部分にまつり縫いを取り入れる。
- ・スナップは、必ず1つ以上付ける。
- ・ポケットは取り入れた衣服のポケットを再利用しても、自分で作成してもよい。

(5) レポートについて

- ・レポートには、「テーマ」、「構想」、「自分や家族の生活を豊かにする視点」、「私にとってのものづくりの視点」と「衣服の再利用の工夫（どの部分をどのように活用するか）」その理由を明記すること。
また、まつり縫い・スナップを取り入れた部分を明記（朱書き）すること。
- ・使用した自分や家族の衣服、その他の布は解体前の全体像を写真またはイラストでレポートに表す。
- ・製作レポートは規定の用紙を用いることとし、必ず手書きをして提出すること。

(6) プレゼンテーションについて

今年度、県の代表として東海北陸大会に選出され、さらに全国大会に選出された場合、実技審査ではなくオンラインによるプレゼンテーションを行う。上記レポートの3視点に関する3分以内の発表を行う。プレゼンテーションは「zoom」でできることは全て認める。その後審査員からの質疑応答を、2分程度行う。以上のことを了承した上で出品する。

(7) 作成全般について

生成 AI による生成物を自己の成果物として応募・提出しないこと。

6. 審査項目（全国中学生創造ものづくり教育フェアに準ずる。）

評価項目		評価の内容
準備	布等の使い方	<ul style="list-style-type: none"> ・布等は，資源や環境へ配慮し，無駄なく使う工夫をしているか。 ・自分または家族の衣服（衣服以外の布等）を使用しているか。 ・解体前の全体像を写真，イラストでレポートに記しているか。
	型紙の配置	布目の方向を考え，適切な縫い代をとっているか。
縫製	縫い代の始末の仕方	・布やバッグの部位に応じて，適切な幅であるか、縫い代を適切に始末しているか。
	ミシン縫い	・バックの部位に応じて，縫い目の大きさや強度が保たれる工夫をしているか。
	手縫い	<ul style="list-style-type: none"> ・まつり縫いが適切にできているか。 ・スナップを適切に付けているか。
	出来映え	・作品の出来映えはどうであるか。
衣服の再利用	デザイン及び機能性	<ul style="list-style-type: none"> ・自分または家族の衣服の一部を使用しているか。 ・<u>衣服の一部の利用は，テーマに応じたデザインになっているか。</u> ・<u>衣服の一部の利用は，テーマに応じた機能を満たしているか。</u> ・使う人の立場に立った工夫がされているか。
レポート	記述内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分や家族における課題」、「解決方法（衣服等の再利用を含む）」、「期待される効果」、「製作工程」、「型紙の配置」、「まつり縫い・スナップを取り入れた部分」を具体的に記述しているか。 ・解体前の全体像を写真，イラストでレポートに記しているか。

7. 表彰

最優秀賞 1 名，優秀賞 1 名，参加賞

上位優秀者 2 名は東海・北陸地区大会に静岡県代表として出場する。

審査は静岡大学教育学部担当教官，静教研技術・家庭科教育研究部役員が行う。

8. 作品提出 令和 6 年 10 月 18 日（金）（当日の持ち込みも可能）

学校ごとに作品と別紙製作レポート（全国大会の形式 A4 で 3 枚）を直接下記提出先に送付する。

送料は学校負担とする。各校の出点数は最大 5 点までとする。

審査終了後，作品は返却する。返却料は事務局負担とする。

<問い合わせ先>

掛川市立桜が丘中学校：向井和花（家庭科）

住所：〒436－0224 掛川市富部 716

Tel：0537－22－6278 Fax：0537－22－6279

Email：office@sakuragaoka.ed.kakegawa-net.jp